あゆみ速報

原研労組中執ニュース

No. 4847(63-14)
2012. 01. 04(水)

原子力平和利用三原則ー公開・民主・自主ーを守ろう
日本原子力研究開発機構労働組合
〒319-1106　茨城県那珂郡東海村白方白根2-4　Tel. 029 (282) 5413, 5414　Fax. 029 (284) 0568

回覧				

～ 原研労組 旗開き の案内 ～

≪ 20年・30年永年組合員の表彰も行います。≫

と　き：1月11日（水）午後6時30分
ところ：原子力科学研究所内　原研労　組合事務所
内　容：委員長挨拶
　　２０年、３０年永年組合員表彰
　　執行部と組合員の懇談
　　軽食を用意します。奮ってご参加下さい。

新年のあいさつ　2012年　新しい年を迎えて

日本原子力研究開発機構労働組合（原研労組）　中央執行委員会

2012年、新しい年を迎えました。

昨年3月11日の東日本大震災、それに伴い発生した福島第一原発の重大事故。それ以来、10ヶ月を過ぎようとしていますが、大震災からの復興も、原発事故の収束もまだまだ前途多難の状況です。

今回の原発事故は、極めて広範囲に途方もない放射能汚染を引き起こし、多くの住民の方がいつ地元に帰れるのかどうかわからない状況を作り出しました。農業・漁業をはじめとして、すべての産業、教育、医療、地域社会を含め、生活全般に多大な影響を及ぼしています。そして、福島県内はもとより、他の地域においても、大勢の方が被ばくの不安にかられています。

原子力の公的機関に働く私たちにとって、福島原発事故は大きな衝撃を与えました。「住民が避難しなければならないような事故は絶対に起こしてはならない」ということは、原子力に携わる者の共通した思いであったはずです。それが打ち砕かれた原因はどこにあるのでしょうか。私たちは、そのことをしっかりと考え、行動していかなければなりません。

この事故を契機に、国民の中では「これからは原子力エネルギーに依存しない」という声が多くなっています。原子力安全庁の発足をはじめとして原子力行政も大きく変化します。私たちの職場である原子力機構のあり方、業務、組織などに大きな変化が起きています。これから、もっと大きな変化があるでしょう。原子力の公的機関に働く者として、原発事故の対応と収束に向けて全力を挙げることは当然です。それと同時に、私たちが国民から求められていることは何か、私たちがしなければならないことは何か、ということについて、真摯に、そして真剣に考え、行動していきましょう。

原子力機構の変化、不透明な先行きや個々の職員への様々な影響により、職場の中で不安の声が挙げられています。激動の中でこそ、原子力機構の果たすべき役割を見据え、職員の雇用と処遇の確保に全力を挙げることが、労働組合に求められています。原研労組として、ひとりひとりの声を大切にしながら、これからも運動していく決意です。「ひとりは万人のために、万人はひとりのために」を合言葉に、原研労組は、職場や職員全体のことも、個々の職員のことも、きちんと取り組んでいきます。

組合員のみなさん、これからも一層のご理解とご協力をお願いします。原研労組に加入されていない職員のみなさん、ぜひ、原研労組に加入して、ご一緒に自らの職場と雇用・処遇のために運動しませんか。

****

[開発と規制の体制作り、人材育成をどうするか](11月1日)　報告 続編

―― 現状は役人だけでは規制できない。キャリアシステムも見直しを。 ――

Bさん：どうしたらいいのですか？

書記長 ： もうひとつ、皆さんに思い出してもらいたいことがあります。 JCO事故の後、原子力業界はずいぶん反省したはずです。そう言っていました。NSネットだの、（言葉さえわすれていません？）安全文化だのと言っていた。ピアレビューしますとか。言っているそばから、東電のひび割れ隠しが明らかになった。それもNSネットで暴かれたものでもない。あれは何だったのか、ごく一部の人だけの反省だったのでしょうかね。

（ オフサイトセンターに関する話、略 ）

Aさん：規制の話で言ったら、昔、科学技術庁は、核燃料規制課などに 動燃からの出向者がたくさん行っていた。行かないと規制の仕事が回らない。ずいぶん上のポストにも指定席があった。本当に推進側が規制に入ってやっているような状態だった。人材がいないのはしょうがない部分もある。再処理やっているのは動燃だけだったから。 役人は、人事異動が激しくて、「サーベーメーターって何ですか」と言うような人がくる。換われば3，4ヶ月はレクチャーで終わってしまう。こっちで審査書を書いて、これで回してくださいということもある。

Eさん：それって、被告人が判決文を書いているのと一緒じゃないですか。

書記長 ： 犯罪じゃないから。

Eさん：でもある意味でそうでしょう。

委員長：バックアップをしないと無理。役人として動いていく人に、わかれと言うのは無理。わかる人が居なくなって.....。

Aさん：キャリア、一番話さないがえらい人。

委員長 ： 役人のキャリアシステムも変えていかないと、ずっと同じ仕事をやっていくという覚悟の人、それから、それをきちんと処遇していくシステムが出来ないと。

書記長 ： 日本の社会、高度の専門性は馬鹿にされている。何かあれば持ち上げられるのだけど、処遇面ではお粗末。原子力機構だけでなく、日本の全般的傾向。

Aさん：動燃は村社会、派閥、どこの派閥に入っているかで決まる。

―― 原研労組として何を言っていったらよい？ ――

委員長 ： （労組は）何を言っていったらよいでしょうかね。Dさんが言ったように、「労組は言う権利がある」は分かりますが。

Cさん：原子力発電をどうするのかは？　本日のテーマでは無いですが。

Bさん：原子力機構の中では、いろいろな人、原子力に結びつかない仕事をしている人も多い。組織を切り貼りするには、そのへんも考えてもらわないとならない。

Eさん：原研がどんどん原子力から離れていく流れだったのが、統合のとき「原子力機構」になった。

書記長 ： 小泉行革で、「廃止か民営化だ」と言われ、統合にしようということになったが、「原研はそもそもなんだ？」という問いに「やっぱり要は原子力だ」という話に戻った。その前の脱原子力みたいなのは、おかしいと僕は思っていた。いろいろなことをやるのはいいけれど、要となる原子力の問

題を研究しなかった。批判的にやることを逃げた。応力腐食割れとか。東電のひび割れ隠しの件で言えば、「応力腐食割れは解決済み」と言われていた。 ところが実際の炉で多発していた。原子力委員会だか、安全委員会だったかわすれましたが、解決したことになっていたので困り、戸惑っているのです。 要するに、「解決した」なんて間違っていたというのが簡単な結論なのに、それを率直に認識できない。 問題があることがわかってからその有様だから、顕在化していないときは、「解決済みなのだからやるな、やるな」ということになる。

Eさん: そうです。 SPEEDIだって、「事故は起きないから、その技術を生かしてほかの事をやれ」といわれウンカの予測などをやった。

司会: 動燃では、応力割れは実際の施設で出ていて、調べていたけど、報告はつぶされていたと聞きます。

Aさん: そういうのはシミュレーションだけでよいのか、実際に追っていくべきものか？やれるものならやっていくべきでしょうね。

書記長 : ことの重大性を考えれば、当然やるべきと思う。「解決済み」というのは、たぶん、本当のガセネタで無いなら、何かの加速試験か何かで解決したと思ったのでしょうね。でも加速試験というのは実際の状況と違うでしょう。だから、一応何か見えたぞと思っても、実際の炉なり長期間の試験でずっと追うべきだった。

Aさん: 同じようなことほかにもいろいろあります。

(高温ガス炉とHENDELに関する話題など 略)

―― 批判精神が大切 ――

Eさん: 安全に関する疑問はつぶされますよね。 誰がどういう意図でつぶしたかを明らかにしないと、疑問を阻んできたものを排除しないとならないのだけれど、そこが本質だと思うけれど、みんな「あー」となって終わる。小さな組織では、具体的に「部長が」とかあっても、大きなところではどこがガンなのか？

書記長 : 個人的見解だけど、最近テレビを見ていてここが原点かと思うのが、正力とか中曽根です。そこから延々と。 たとえば原子力工学を作るときに、アメリカへ勉強しに行かせる。 勉強するだけだと、自分で批判的に考えない。そんな風に原子力工学科を作る。 第1期生に一人だけ、批判的な変な人が居たが、それをはじき出した。 そんな風に脈々と変な文化を育ててきた。 それが原子力村社会とか安全神話とか言われているものかなと。

Eさん: 理学から、原子力工学科に入ったのだけれど、非常に違和感があった。 役人が講義しに来て、原子力の反対派に対して裁判でどういう風に反論したとか、延々と講義されることもあった。 異様だった。

書記長 : 多くの原子力屋さんは、単細胞、想像力貧困だと思っている。いろいろなことが起こりうることを考えない。 たとえば、さる原研OB、福島事故のすぐあと、新聞に「地震には耐えた。津波は見落としていてやられた。しかし、事故は問題なく収束する」などと書いている。 炉の状態がほとんど何もわかっていない段階で、です。 そんなのは、そうかもしれないことのひとつでしかない。スポーツ評論だったら、そんなことを言ってもよいだろうが、国の危機にかかわること、読み間違ったら大変なことに対してとっていい態度ではないと思う。

Bさん: **われわれ、どうしたらいいですか。**

書記長 : ひとつは、「今まで指導的な立場にあった人はみんな責任とってやめろ」ですね。

???さん : それを言いますか。

書記長: 言いたいね。 あとは、原点に戻って、研究者の発表の自由とかを処遇も含めて守るシステムを作り直す。別の場で、Gさんがいっていたけれど、上の人をみんなの投票などで選ぶとかを考える。それをやればよいと思っているわけではないけれど、ひとつの方策だと思う。 それから、今まで進め方が間違っていたということをどれだけ反省するかではないですかね。

Eさん: 批判・検証的に見る視点が醸成されていないから。今回のことでも反省がないのでしょう。 原子力工学科は分野が広すぎる。それぞれ先生は自分の分野はやっていても、ほかの分野に対してものをいえない。実際に言うだけの素養もないから、ほかのところには口を挟まないようにしようという気持ちがお互いに出来ている。それで相互に批判できない。批判的精神が無くなる。

書記長 : 私など、原子力をあんまり、勉強しないほうがよいと思っている。 なぜかというと、いろいろ知識が大変でしょう、それであんまり勉強しているとそれに追いまくられて、個々のことを批判的に見る視点がなくなってくる。いちいち検証していられないですから。それぞれは結構高度だし。そういう危なさが原子力にある。

Aさん: 広く浅くになってしまう。 原子力工学科でなくと、物理屋とか引っ張ってくれれば、何とかやれるのでは、と思うこともある。

(新入職員に関する話題 略)

―― 機構として何をすべきか？ ――

書記長 : 今福島応援がメインだとか行っているけど、正直どうかと思う。福島応援は大事かも知れないが、自分の失敗を別のところで努力して取り繕っている様な印象を受ける。

委員長 : 仕事の内容では、次世代高速炉の仕事を予定した人は、別の仕事になるなど、仕事の内容は大きく変わる人が出てくる。

書記長 : それもあるけど、原子力機構が、元気に仕事を出来る職場として残るかどうか？

Eさん: 使命感を持ってやる人も居ると思います。

委員長 : ひとつはクリーンアップセンター構想とかあります。動燃時代から、仕事が途切れないようにするのが上手。真面目に議論してやっているように見えないけど。 真面目にやっていくつもりが見えないようでも、つなぐ仕事をつくるのには一生懸命。 原子力から、だいぶ離れているのだから関係ないと思っている人も多いかも知れないが、統合時、そういう部分を分割する話もあったから、機構に居られなくなることも考えられる。 原子力機構がこれから何をすべきか、大きな問題。 来年度の原子力予算9000億円そのうち3500億円が除染ともいわれている。 人は絶対に増えないと言われているので、仕事がシフトとして来るのは間違いない。

Aさん: 3500億？やる気がないのでしょうか？そんな額で除染できるようには思えないけど。

(統合や分割関連の若干の議論など 略)

執行部 : 今の議論、まとめ的な結論は出せませんが、ここで出た意見など、個人名は伏せたりして公表していきたい。

*********　閉会　********